

3. 北海道大学学術成果コレクション (HUSCAP)

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers
<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp>

1. 概要および現況

「北海道大学学術成果コレクション (HUSCAP)」(図1)は、北海道大学所属研究者(大学院生を含む)の研究論文、学会発表資料、教材等を図書館資料として電子的に保管し後世へ継承するとともに、インターネットを通じて全世界の研究者に提供する電子コレクションであり、平成18年4月から公開している。



図1. 北海道大学学術成果コレクション (HUSCAP)

附属図書館では、本学研究者の協力の下に、国際ジャーナルに掲載された研究論文を重点目標として文献蓄積をすすめており、平成19年7月23日現在、HUSCAPは17,789文献を擁する世界有数の機関成果コレクションとなっている。収録文献の利用は学外からの利用が大部分を占め、累積ダウンロード数は平成19年7月12日に100万回を突破した(図2)。

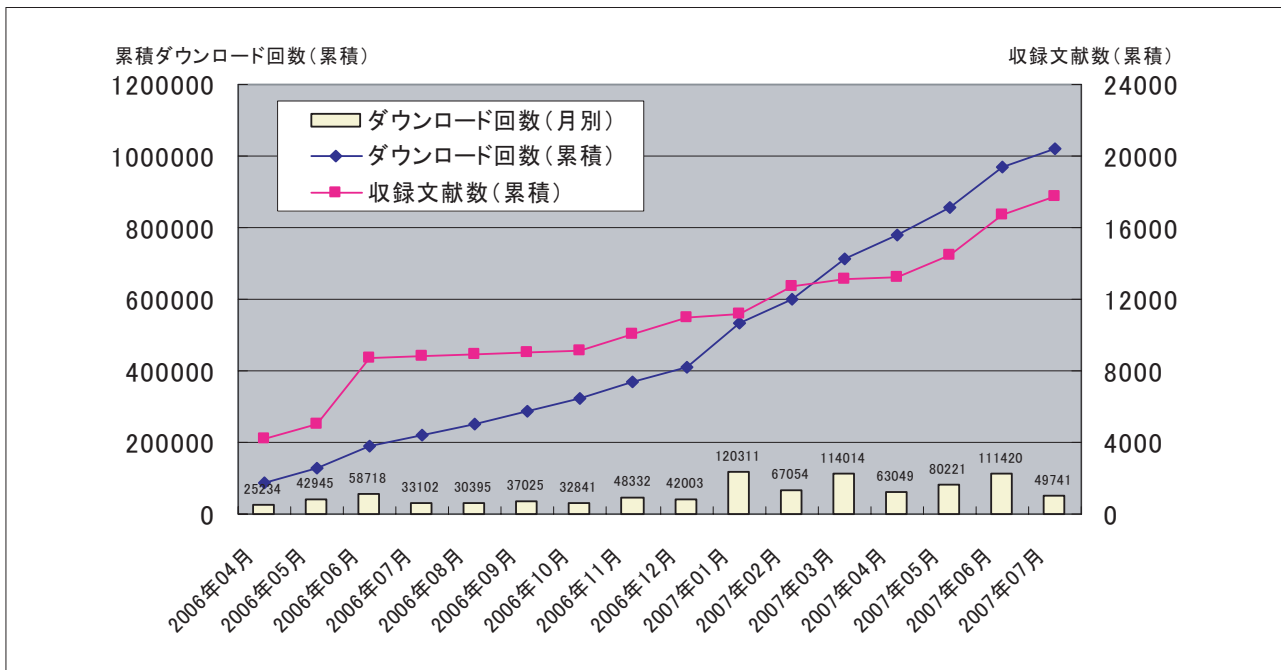


図2. 収録文献数及びダウンロード数の推移

2. HUSCAP の意義

学問は、時代と地域を超えた人類の共有財産である。

電子ジャーナルの隆盛などにも見られる通り、学術情報の流通は電子形態が主流を占めつつある。電子情報は即時性、広域性の点で従来の紙媒体の印刷・配送にくらべて遥かに優れているが、その反面、常に散逸の危険をはらんでいる。現在世界の500以上の大学・研究機関が、**HUSCAP**と同じように、所属研究者の著した文献を図書館蔵書の重要な一角として電子コレクション化していく活動を進めている。

1990年代から学術雑誌の価格は高騰を続けてきた。本学では共通経費化等の措置により、一定量のジャーナル・タイトルの購読を維持できているが、世界の他の大学・研究機関では研究に必要な文献の入手が困難な状態になっているところも少なくない。こうした経済的な障壁を取り除き、あらゆる学術文献の本文を誰もが無料でオンライン閲覧できる環境を創り出そうという活動（オープンアクセス運動）が盛んになってきている。無料の電子ジャーナルを創刊したり、各研究者が雑誌へ投稿すると同時に所属機関のウェブサイトと同じ論文を公開していこうという動きである。

HUSCAP は、この後者（機関からの論文公開）のプラットフォームとなることを目指している。

無料オンライン公開された論文は、そうでない論文に比べてより多くの研究者の目に触れるので、1.4～3.4倍多く引用されるという統計結果（Hajjem, Harnad, Gingras (2005)）が報告されている。附属図書館では、本学研究者の研究論文の可視性を高め、潜在的な読者層を開拓し、本コレクションのさらなる充実を目指している。そのためには、本学研究者のさらなる協力を仰がなければならない。